FRONTIER SPIRIT BE OUR GUIDE

Feature

Super Global High School Associate

文部科学省により スーパーグローバルハイスクール(SGH) アソシエイト校に指定!

今年度から名古屋国際中学校・高等学校は、文部科学省によるスーパーグローバルハイスクール(SGH)アソシエイト校に指定され、『SOCIAL ACTION(社会的活動)』を通じた実践的な国際教育に取り組んでいきます。
新たなプロジェクトにかける意気込みと具体的内容について、ジョージ・プルイト校長とSGHアソシエイト主任の黒宮祥男先生、そしてSGH管理機関として本校のグローバル人材育成プログラム構築に携わる、石井竜馬名古屋商科大学経営学部教授にお話をうかがいました。

SGHが掲げる理念は、本校の教育理念そのもの

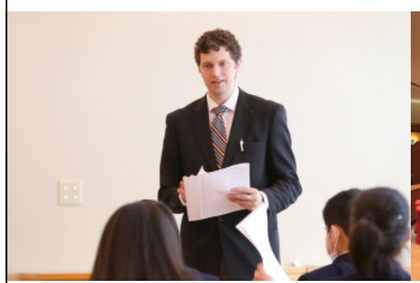
グローバル人材育成のための質の高いカリキュラムの開発・実践と、その実現を可能にする教育システムの整備を進める文部科学省のスーパーグローバルハイスクール(SGH)選定において、高い評価を得た本校の国際教育への取り組み。なかでも、社会的活動を通じて国際社会が抱える諸問題を発見・解決するスキルを磨き、持続可能なグローバル社会の実現を担う人材の育成を狙いとした『SOCIAL ACTION!』で持続可能な開発を担う人材育成プロジェクト」構想は、特色あふれるプログラムとしてSGHアソシエイト校指定の大きな要因となりました。

『社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力や問題解決能力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバルリーダーを育成する』というSGHの理念は、本校が一貫して掲げている教育理念と合致します。今回のSGHアソシエイト校への指定は、多彩な国際教育に取り組む本校の教育内容が公的に認められたことを意味し、教員や生徒にとって大きな励みになります」と語るジョージ・プルイト校長。開校以来、先進の国際教育・外国語教育を展開し、21世紀を担う未来の国際人を育ててきた本校ですが、新たなプロジェクトでは『持続可能な国際社会の発展』という目標達成に向け、生徒自身がどのように関わることができるかを重視。

「多数の外国人の居住・就労」
「南海トラフ巨大地震による災害予測と対策」
「愛知万博・リニア建設など人と自然との共生」

という地域課題をふまえ、本校の教育プログラムの現状を分析した結果、その改善・拡充に向けた3つの研究単位を設定しました。

第一の研究単位として掲げたのは、①経済的、②社会文化的、③環境的という3つの視点に基づく『社会的活動の実践における探究型クロスカリキュラムの作成』です。「経済的視点では、国際ボランティアへの参加で確かな実績を積み重ねている国際理解研修マニラコースを中心に、フェアトレード運動や災害支援等へ活動の幅を広げ、より体験的に『経済活動と貧困』の問題を考察するプログラムを構築します」と意気込みを語るのはSGHアソシエイト主任の黒宮祥男先生。また、社会文化的視点では「多文化共生と減災」、環境的視点では「社会生活と循環」というテーマから基礎知識を身に付け、積極的に社会的活動に携わることで、社会に対する生徒の多面的な視野と思考を育成します。



SGHアソシエイトとは?

グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や、国際的なビジネス(国際機関職員、社会起業家、グローバル企業の経営者、政治家、研究者など)で活躍できる人材の輩出を目的とした、文部科学省による人材育成推進事業。国際化を進める国内の大学を中心に、企業や国際機関との連携によりグローバル人材の育成に取り組む高等学校等を「スーパーグローバルハイスクール(SGH)」に指定し、質の高いカリキュラムの開発・実践、その体制整備をサポートする。全国から56校がSGHに指定されるほか、SGHの事業構想をより多くの学校へ広める観点から、グローバル・リーダー育成に資する教育システムの開発・実践に取り組む高等学校等を「SGHアソシエイト校」と位置づけ、SGHコミュニティを形成。社会課題、ビジネス課題をテーマにした、各校の探究的な学習や取り組みに関する情報を共有し、その状況を発信する場としている。

中学から大学院までの一貫体制で、グローバル人材を育成

生徒が国際的視野や実践力を磨く機会を増やすため、第二の研究単位として取り組むのは、大学や企業、NPO団体など「外部組織との連携強化と社会的活動のプラットフォームの構築」です。プロジェクト導入元年となる今年度は、「多文化共生と減災」というテーマのもと、名古屋大学減災連携研究センターや昭和消防署との協働による「防災マップづくり」をはじめ、さまざまな計画が具体的に進行中。「経済活動と貧困」という経済的視点では、認定NPO法人アイキャンとのコラボレーションによる「フェアトレード関連施設マッピング」が、「社会生活と循環」という環境的視点では、スターバックスジャパン(名古屋市立大学病院店)との連携活動も準備されており、今後も外部組織との連携をより充実させ、実社会での経験に基づく実践的課題解決能力や主体性を育みます。さらに系列の名古屋商科大学とも、議論の仕方やレポートの書き方などスキル面の講義、経営や経済関する知識を養成する出張講義など、緊密な連携を図り効果的な教育システムの確立を目指します。

そして、第三の研究単位は「国際教育活動の再編成と体系化」です。本校には世界各地域にある7つの学校間国際協定校との交流や、9カ国を舞台に実施する海外研修、GLP(Global Leadership Program)や模擬国連、国際理解講演会など、国際感覚を磨く多彩な環境が整備されていましたが、SGHアソシエイト校への指定を機に、それぞれの特色が活かされるようプログラムを再編成。また、異文化への理解を深めると同時に、日本の文化への理解や誇りを深めるために、社会科を中心に世界で活躍した日本の偉人や日本にある世界遺産について学ぶ「日本探究」の授業を新設。今年4月からは世界水準の教育プログラム「国際バカロレア・ディプロマプログラム(IBDP)」がスタートし、ユネスコスクールとしても世界各国の加盟校との交流の広がりが期待されます。効果的に体系化されたプログラムを通して、グローバル社会で自らの意思を発信する能力を養う、真の国際教育を展開していきます。

「製品やサービスなど企業活動の国際化が急速に進み、今後はますます"人材のグローバル化"が社会から要求されていきます」と語るのは、管理機関として本校のグローバル人材育成プロジェクトに携わる名古屋商科大学経営学部の石井竜馬教授。「名古屋国際中学校・高等学校のSGHプロジェクトで養われるディスカッションのスキルや自分の考えを表現する力は、今後のグローバル社会で活躍する上で欠かすことのできない力です。学園全体で理念を共有し、中学から大学院までの一貫した体制のもと、グローバル社会で活躍できる人材の育成を目指したい」と、石井教授は中学・高校との連携に大きな期待を寄せています。

生徒が取るべき行動指針として、
(A)国際的な視野に立って思考する
(B)外国語でコミュニケーションする
(C)思いやりと優しさを持ち公平な態度をとる
(D)物事を主体的に探究し、問題を解決する
(E)振り返りの力を持ち、物事を多面的に評価する
という5項目を挙げている本校のSGHプロジェクト。

ジョージ校長は「グローバルリーダーとは、自分の世界を飛び出して、たくさんの人や考えと繋がることができる人。英語で探究することを目的としている点こそ、本校のSGHプロジェクトの特徴です」と自信をのぞかせます。また、「さまざまな社会的活動を通して、それぞれの立場から改善に向けて積極的にアプローチする姿勢を身に付けてほしい」という黒宮先生の言葉からも、探究型の組織の中で主体的に役割を果たすことのできる人材を育成するという強い意志がうかがえます。さまざまな視点から社会と関わりを持ち、知的好奇心をベースに高い倫理観を持って行動できる探究心に優れた人材を育む、『SOCIAL ACTION!』で持続可能な開発を担う人材育成プロジェクト」。今後は生徒からのアイディアも柔軟に取り入れ内容を拡充し、国際理解研修など多彩な活動とも融合させながら、日本の未来を牽引するグローバルリーダーを育てていきます。

▲名古屋商科大学経営学部教授で、管理機関として携わる石井竜馬教授
▲本校のSGHアソシエイト主任としてプロジェクトの中心となる社会科の黒宮祥男先生

▲「社会的活動」を通じた人材育成に自信をのぞかせるジョージ・プルイト校長